

～60号～

福祉のネットワーク永山 だより

～今年度の振り返り、次年度に向けて～

今年度は高齢者の方が孤立しない地域を目指し、子どもや若者、子育て世代など、さまざまな世代をテーマにした取り組みを進めてきました。2026年度(令和8年度)はこれまでの活動をさらに広げ「多様な人々が集い、活気あふれるまち」と「孤立を防ぎ、安心して暮らせるまち」を大きな目標として、地域のみなさんと一緒に取り組みを進めていきます。



～第6回定例会～
地域の情報共有や
発信方法を考える

<課題>

- 1.多くの団体が現状では回覧板、掲示板あるいは紙のチラシ(=アナログ)で対応している。
- 2.アナログだと印刷や配布に手間がかかる。情報の伝達が遅い。若い世代に情報が届きにくい。
- 3.将来的にはLINEやホームページを使って情報伝達をデジタル化する方向に持っていきたい。⇒その際はデジタル難民を出さないよう配慮する必要がある。
4. デジタル化するにはその分野の知識のある人員の確保及び予算を考える必要がある。

<デジタル移行>

- 緊急情報
火災・地震・安否確認等の防災情報
- 迅速重視
期限のある連絡や、緊急性の高い周知事項
- 環境整備
集会所への無料Wi-Fi設置、地域アプリ「Yumicom」の導入

<対面の価値>

- 交流
お祭り・伝統行事・顔の見える関係性
- 個別支援
認知症・要配慮者の方へ直接の声掛け・訪問
- 確実な伝達
予算・決算などの重要事項の全戸配布、掲示板での記録写真共有

カフェれすと 庵

(NPO法人 自立支援センター多摩)

約1年前にうどん、蕎麦などを提供していた“庵れすと”からリニューアルして、永山4丁目の永山名店街に現在の“カフェれすと 庵”を営業している。

一般的なカフェメニューの他にご飯、洋食、うどん、蕎麦、温麺などの他におすすめの季節限定メニュー、特におすすめはベルブ永山3階にある姉妹店“喫茶れすと”と同じケーキとコーヒーを提供している。またアルコール・おつまみなども取り揃えている。営業時間は（月）～（土）の10:30～

17:00だが（金）は19:00とし、お酒メニューを中心に夜の居場所として提供している。

店長の石川^{いしかわ}剛^{ごお}さんは、「ここでしか出せないメニューを揃え、また、夜の部でほっとできるような空間になれば」とさらには「この店だけでなく、コロナ禍以降客足の遠のいた永山名店会を諏訪の商店街とともに盛り上げていきたい」と思っている。他にも毎月第2土曜日（都合により第3土曜日）は“とうふの日”として店の前のファサードで豆乳おからドーナッツ、焼きそば、里芋コロケなどを販売している。そして、永山名店会としては、さつき祭り、夏祭り、サンマ大会を含む秋祭り、12月の歳末感謝祭など年間を通して計画・実施している。“カフェれすと 庵”では、予約していただければ会合などの団体客も歓迎している。



福祉亭



団体の名は、特定非営利活動法人福祉亭が正式名称だが、普段は「ふくしてい」の愛称で親しまれている。この福祉亭にはもう一つの名前「カフェ・ノード」があり、ノードにはIT分野でも使われる“結節点”という意味が込められている。しかし福祉亭が大切にしているのはあくまでアナログなつながり。地域の皆さんが交流し関係性を育み、助け合い、支え合いながら、住み慣れた地域で豊かな人間関係の中で健康に過ごしてほしいという、地域の居場所としての願いが込められている。2003年に行政と市民による構想からスタートした。現在は、子ども食堂も運営するなど、地域に根ざした活動を

続けている。多くの時間が流れる中で、日々沢山の方が福祉亭のドアをあけるが、そこに広がるのはどこか懐かしい「昭和の街の食堂」のような空間。この福祉亭の空気をつくり、運営を支えているのは、活動に心を寄せるごく普通の市民の方たちで、それぞれが想いや時間、体力を少しずつ出し合い、一日の活動をつくり出している。

「サビシイ！！」という言葉は大人も子どもも口にしにくいものだが、「お腹が空いた」という言葉は誰もが等しく口にできる魔法の言葉。そんな考えから、福祉亭では毎日心を含めた家庭料理を提供しており、スタッフ一同が力を合わせて格闘しながら、これまでに6,000日余りの月日を積み重ねてきた。これまで多くの思いが行き交い、様々な出会いと別れを経験してきたが、これからも地域から少しでも「サビシイ！！」が減り、笑顔が広がっていくよう願っている。

modoki

「modoki」（右写真）は「医療型特定短期入所」「まちの団らんを生むワインバー」「図書館＆福祉のセレクトショップ」「泊まれるまちの休憩所」の4つの機能を持つ多機能循環の場として諏訪名店街に2025年オープン。1人になりたいけど一人ぼっちになりたくない時に過ごせる場所を目指している。手がけているのは、一般社団法人「Life is」。同商店街内に駄菓子屋とフリースペースを併設する児童発達支援と生活介護の事業所「+laugh（アンドラフ）」を運営する法人である。代表の影近卓大さんは理学療法士であり、「私たちは、ほぼすべての事業についてたった一人の困りごとから始めています」と店づくりにも福祉を考えている。

かつての商店街には野菜を買うついでに悩みを相談したり、店主に元気がないと、お客さんが店主を励ましたりという側面があった。影近さんはこれからの商店街について、機能を変えながらも、地域住民のくらしを支えるという役割を持ち続ける事で、かつての商店街の持つ福祉性を現代に見合う形で再構築したいと考えている。



カフェ&バル 風とキャラバン



「風とキャラバン」は、オーナーの神永大輔さんが諏訪に住むようになって、近くに飲食店がなかったことから、ライブ・イベントも催すことができ、居場所にもなる飲食店を目指してオープン。

店（左写真）の内装はウズベキスタンのサマルカンドの青いイメージだ。シルクロードにあるサマルカンドをイメージした内装や店内では、小さな旅気分を味わえ、日常の中の非日常の場となる。家族の居場所にもなるが、小上がり席を設けステージとしてイベントも行える。

ランチは日替わり。料理の経験のある者たちがシェフとなり、こだわりを少しずつ出している。毎日通っても飽きないというわけだ。スリランカ、インド、パレスチナなど世界中の料理を取り入れているという。風とキャラバンは通勤途中の人、子どもを学校に送った保護者などが朝から多く立ち寄る。

また、夜の時間帯には、おつまみやカクテルのほか、週末限定の夜カレーも用意しているという。さらに音楽イベント、日本酒イベント、生活クラブの試食会、結婚式・貸切パーティ、子育て、ママ向けの各種講習会など、様々なイベントを催している。神永さんは尺八の師範、ロックバンド「和楽器バンド」のメンバーであり、国内外で演奏活動をしている。その経験、人脈を店の催しや企画にも活かしている。

永山地区通いの場

団体名	活動内容	曜日	時間	会場
3の2近トレサロン	近トレ	毎週水曜日 (祝日除く)	10:00-11:00	永山3-2集会所
ネットワーク永山「体操サロン」	体操・脳トレ	第2水曜日	13:30-14:30	諏訪福祉館・ 永山東集会所
すいすいサロン	近トレ・体操	毎週水曜日 (第5週除く)	10:30-11:30	永山東集会所
永山3丁目近トレクラブ	近トレ・ラジオ体 操・脳トレ	毎週火曜日(祝 日除く)	10:30-12:00	西永山福祉施設 多目的室
サロン5-21	裁縫(第1木曜日)・園芸(第2・4木曜 日)・近トレ(毎週月曜日)		10:00-12:00	タウンハウス 永山5集会所
瓜生サロン(瓜生ランチ)※五丁目 自治会の方対象	食事会	第3火曜日	11:30-14:00	瓜生集会所
瓜生サロン(5の日サロン)	手芸・麻雀・書道 (かな文字)	毎月5日	13:00-16:00	瓜生集会所
瓜生元気アップトレーニング	近トレ・口の体操	毎週月曜日	10:30-12:00	瓜生集会所
永山5-34元気アップトレーニング	近トレ・口の体操	毎週木曜日	10:00-12:00	タウンハウス 永山5-34集会所
アイ♪ビ	近トレ	毎週日曜日	10:30-12:30	諏訪福祉館
ふれあい近トレ	近トレなど	毎週水曜日	10:00-12:00	永山3-1集会所
永山ハイツ体操サロン	近トレ	毎週月曜日(祝 日除く)	13:30-15:00	永山ハイツ 集会所
いきいきサロン・メゾネット永山	おしゃべり会・ 脳トレ	第1火曜日	13:30-15:00	メゾネット 永山5団地集会所

近トレは「近所de元気アップトレーニング」の略称で、介護
予防・フレイル予防を目的とした、体操や脳トレを通じた住
民同士の交流の場のことだよ♪

発行・編集：福祉のネットワーク永山

事務局：多摩市社会福祉協議会

TEL：042-373-5616 FAX：042-373-6629

E-mail：nw-nagayama@tamashakyo.jp

